

日本で最初の歩道橋

現役の頃、「現代都市問題」の講義のなかで、歩道橋のことをよく話題にした。NHK「現代の映像」で放映された「歩道橋考」の映像を流して、学生たちに歩道橋について問題を投げかけた。いつもより鋭い「反応」を感じた。

退職する数年前、日本で最初の歩道橋が撤去されるというニュースがあった。確か新聞コピーを配布した。西枇杷島の歩道橋だったと記憶しているが、その後、どうなったかフォローできていなかった。偶然にも、最古の歩道橋近くに住む知人から、現在の「西枇杷子歩道橋」の写真を送ってもらった。うれしかった。現在の歩道橋モニュメントには、写真では次のように書かれていた。

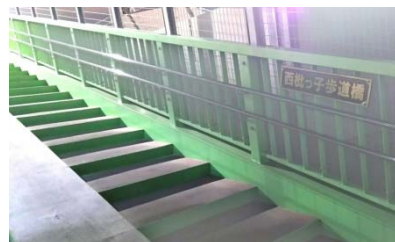
「清須市西枇杷島町を通る旧国道 22 号（現在の県道名古屋祖父江線）の交通量は、愛知県内でも非常に多く、交通事故が多発していました。また、近くには小中学校があり、多くの子どもたちは登下校時に必ずこの国道を渡らなければなりませんでした。

そのため PTA のみなさんから早く陸橋を作ってほしいとの声上がり、昭和 33 年夏に計画が決まりました。

歩道橋は、それまで全国に例がなく、その構造や設置場所などについて、建設省（現在の国土交通省）や警察と相談しながら、当時の技術を集めて、昭和 34 年 6 月、この二見交差点に、日本で最初の歩道橋ができました。

総工事費は 320 万円、全長 46.8m、幅 2.5m、高さ 5m の鉄筋コンクリート製で、高さ 80cm の金網つき手すり取り付けられました。

その後 50 年たち、平成 22 年 9 月、新しい歩道橋に架け替えられました。古くなった橋は、現在、名古屋大学に保存されています。（平成 25 年 12 月）」



名大工学部、鏡池近くにある「名古屋大学・NEXCO 中日本橋梁モデル」という施設を思い出した。名大中央図書館に行くとき、鏡池の鳥を観察しながら



通り過ぎるところだ。橋梁保全のための研究・教育施設「ニュー・ブリッジ」である。

日本で最初の清須・二見の歩道橋に、いつも名大図書館に行く途中で会っていたとは。ここでも、なんだか時間軸と空間軸、「点と線」がつながっているようだ。

(2017 年 3 月 18 日)